

ぼうさい通信

Vol.79



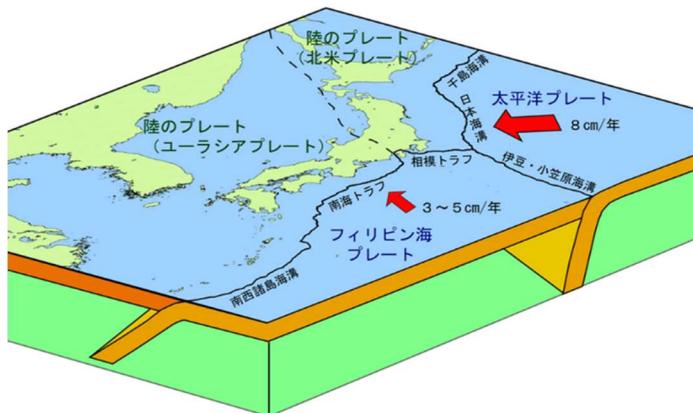
毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和6年9月17日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマ 南海トラフ地震について

「南海トラフ」とは

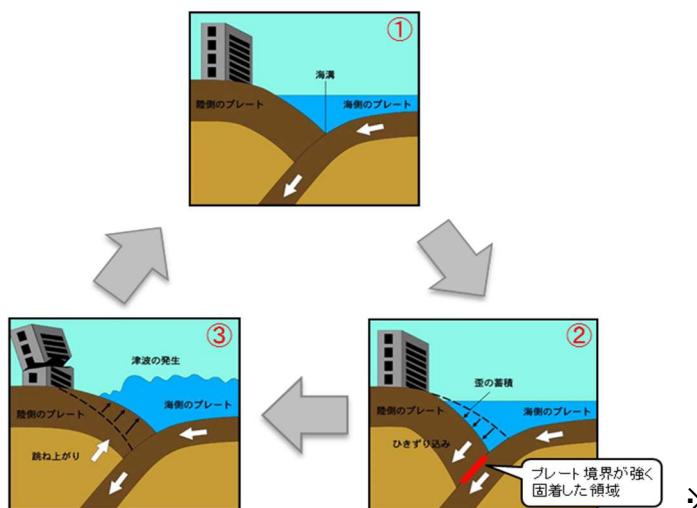
駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域、土佐湾を経て日向灘沖までにかけて、フィリピン海プレートとユーラシアプレートが接する海底の溝状地形を形成する区域を指します。



※気象庁引用

南海トラフ地震発生のメカニズム

南海トラフ沿いのプレート境界では、①海側のフィリピン海プレートが陸側のユーラシアプレートの下に、年間数センチメートルの速度で沈み込んでいます。②この過程で、プレートの境界が強く固着し、陸側のプレートが地下へ引きずり込まれてひずみが蓄積されています。③やがて、陸側のプレートがこの引きずり込みに耐えられなくなり、限界を超えて跳ね上ることで「南海トラフ地震」が発生します。①から③の状態が繰り返されるため、南海トラフ地震は周期的に発生します。

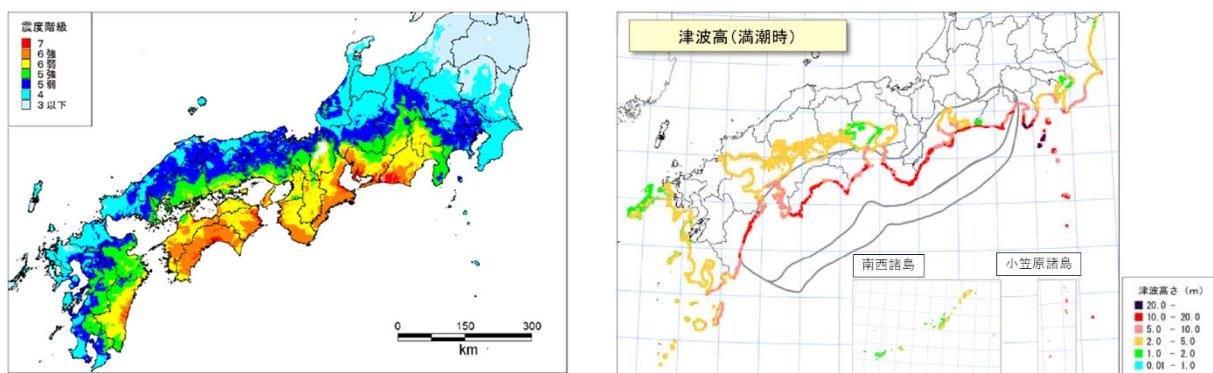


※気象庁引用

南海トラフ地震で予想される震度や津波の規模

政府の中央防災会議は、科学的に想定される最大規模の南海トラフ地震(以下、「南海トラフ巨大地震」といいます)に対する被害想定を行っています。

この被害想定によると、南海トラフ巨大地震が発生した場合、静岡県から宮崎県にかけての一部地域では震度7に達する可能性があり、その周辺の広範囲にわたっても震度6強から6弱の強い揺れが予想されています。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域には、10メートルを超える大津波が襲来することが想定されています。



※気象庁引用

この被害想定は、南海トラフ地震の発生過程が多様であることを考慮した一つのケースとして整理されたものであり、実際にこの想定通りの揺れや津波が発生するとは限りません。また、南海トラフ巨大地震は、千年に一度あるいはそれ以上の低頻度で発生する地震であり、次回の南海トラフ地震を予測したものではない点にも注意が必要です。

地震に備えましょう

- ・ **家具の固定**: 地震時の転倒を防ぐため、家具をしっかりと固定しましょう。
- ・ **非常用持ち出し袋の準備**: 必要な物資(非常食、水、懐中電灯、ラジオ、医薬品など)を揃えた非常用持ち出し袋を用意しておきましょう。
- ・ **水や食料の備蓄**: 万が一の長期避難に備えて、十分な水や食料を備蓄しておきましょう。
- ・ **避難場所や避難経路の確認**: 自宅や学校からの避難場所や避難経路を事前に確認し、緊急時に備えましょう。

自分自身や大切な人の命を守るために、今からしっかりと準備を整えましょう。

【文責 全日制防災担当】

過去のぼうさい通信を見ることができます ◎ぼうさい通信(毎月16日発行)
本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>
くまもとマイタイムライン(デジタル版 マイタイムライン)は、
<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。